

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202873		
法人名	水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	平成29年 3月 2日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202873-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

正直に申しますと私自身も異動して約半年、職員不足の中で日々業務に追われてしまい、【力を入れている点】や【アピールしたい点】を私自身が未だ見つけられていない状況です。今回の外部評価を事業所としての何かきっかけになればと思っております。気になる点は多々あるのが正直なところだと思いますが宜しく願い致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の幹線道路沿いにある1ユニットのグループホームである。近くに薬局、コンビニエンスストア、小学校、まちづくりセンターなどがあり、バス停も近く、利便性に優れている。建物は3階建てで、1階が保育園、3階が当事業所、2階が関連法人のグループホームとなっている。共用空間は清潔で、大きな窓が幹線道路に面し、小学生の通学の様子や商店街の賑わいを眺めることができる。居室は、利用者が馴染みの家具や飾りを持ち込み、その人らしい部屋となっている。地域交流の面では、1階の保育園の児童が年に数回事業所を訪れたり、小学校の道徳の授業を定期的に受け入れ、利用者の楽しみになっている。家族への情報提供については、毎月、写真を載せた利用者ごとの「せせらぎ通信」を作成し家族に送付している。ケアマネジメントの面では、個々のフェイスシート、アセスメントシート、介護計画がルールに沿って分かりやすく作成されている。職員の利用者への対応もやさしく、きめ細かな支援が行われている。医療支援の面では、協力医による住診や看護師による健康管理の体制が整っており、医療に関する記録も整備している。清潔で快適な環境のもと、利用者が安心して過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念、ユニット理念を掲げているが、新人職員が多い為、共有と実践までは到達していない。	理念の中で「地域の中で安らぎと喜びのある生涯が送れるように支援」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとなっている。理念を玄関やスタッフルームに掲示し、今後はさらに共有を深める取り組みを考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1階の保育園や向かいの小学校の定期的な訪問があり、夏場は隣のコンビニや薬局に入居者様と出掛けている。	同一建物内の保育園児が年2～3回事業所に来訪し、利用者と交流している。ミニ児童会館の児童が4～9月の間毎月来訪している。さらに近くの小学生が道徳の授業で利用者に紙芝居や手品を披露する機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと連携し、札幌小学校の道徳授業で当ホームに生徒達が訪問している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催しており、近況報告や、その時に応じた議題を話している。その際は参加者から意見や感想を求め、サービスの向上に努めている。	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、保育園や児童会館関係者の参加を得ているが、家族の参加は得られていない。毎月テーマを設定して話し合い、議事録を全家族に送付している。	会議に家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。仮に参加が得られない場合も、事前に意見を聞いて会議で取り上げることで、間接的に意見を活かすことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請等の際は必ず窓口へ向かい、報告を行っている。又、運営推進会議には地域包括支援センターの職員、町内会長、民生委員等の方達に参加して頂いている。	運営推進会議に地域包括センター職員の参加を得て情報提供を受けている。区に提出書類がある場合は管理者が直接出向き、情報交換を行うようにしている。市や区の管理者会議でも行政担当者と連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスクマネジメント委員会にてマニュアルを作成しているが、新人職員が全てを把握する事が出来ない。年1回は身体拘束と虐待の勉強会を行っている。新人職員には最初のオリエンテーションで説明を行っている。	身体拘束のマニュアルを用意し、勉強会等で禁止事項の理解を進めている。また、11項目の禁止行為についてマニュアルに追加する予定である。ケガ防止のため、やむを得ず拘束を行う場合は同意書を取り交わしている。玄関は夜間のみ施錠し、ユニットからエレベーターホールに出る際はメロディー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会にてマニュアルを作成しているが、新人職員が全てを把握する事が出来ない。年1回は身体拘束と虐待の勉強会を行っている。新人職員には最初のオリエンテーションで説明を行っている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年三回の勉強会や運営推進会議等で地域包括支援センターの職員さんが講師となり行っているが、全職員が把握する事は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に時間を設けて説明をしている。文面の説明をするだけでなく、具体例を挙げながら解り易い説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様へ近況報告を行い、遠方のご家族様には月1回のせせらぎ通信で近況を報告している。遠方の方は難しいが、面会されるご家族様には会話の中から要望を汲み取る様にしている。	家族の来訪時に相談を受け、その内容を「介護支援経過」に記載し、職員間で共有している。また毎月、写真を載せた利用者ごとの「せせらぎ通信」を作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	以前までは個人面談を行っていた。最近は日頃の申し送りや引き継ぎ、日々の業務等で職員の会話から出来る限り意見を聞いている。	ユニット全体の会議を定期的に行い、活発に意見交換している。管理者は随時職員の話聞いており、定期的な面談も再開する予定としている。職員は衛生管理や環境整備、通信作成、行事企画などの係を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、新たな評価制度を作成中とのこと。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対して研修や大会への参加を促している。又、管理者に対しては研修の手伝いに参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者から職員へ研修の誘いがあり、参加している。又、管理者は研修の手伝いに参加し、幅広い人脈作りの場を設けてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に出来る限りの情報収集(過去の施設や病院等から)を行っている。入居者様がスムーズに生活の再スタートを切れる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも情報収集シートをお渡しし、記入して頂いている。又、面会時には近況報告を行い、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学時から希望や要望を聞き、出来る限り、その想いに添える様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の洗濯物を畳んだり、職員と一緒にご自分の部屋を掃除したりしている。職員と一緒に楽しみながら行える環境作りを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とご本人様のズレが生じない様、近況報告やせせらぎ通信等で日々の生活を把握して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人等が面会に来る事はないが、面会や電話等、関係が途切れない様に支援出来る体制を整えている。	友人や知人が来訪する利用者はいなくなったが、知人から年賀状が来た際は利用者に取り次ぎ、家族にも知らせている。家族と一緒に墓参りや畑仕事に出かける方もいる。利用者が以前働いていた店舗のあった建物に食事に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の性格や相性を考慮し、入居者様同士が自然に過ごせる環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後であっても対応できる体制を整えている。今年度、利用者様のご家族が介護の仕事に興味があるとの事で相談を受けた事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との会話等から意向の把握に努めている。意向の抽出が困難な場合はご家族様の意向をお聞きしている。	2名の利用者は言葉で思いや意向を表出でき、その他の利用者は生活歴や家族からの情報を参考に希望や意向を把握している。フェイスシートとアセスメントシートを整備し、1年毎に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様が入居時に記入する基本情報や会話の中から出来る限り把握していける様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録や健康管理表、業務日誌等を記入する事により、職員間の情報共有に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族様の意向を基に担当職員がモニタリングを行い、サービス計画作成者と相談を行いながら作成をしている。	介護計画を3か月毎および状態の変化に合わせて更新している。毎月モニタリング表、更新時に短期目標評価表を作成し、更新時の会議録も整備している。一方、日々の生活記録は計画目標に対応する記録が十分といえない。	日々の生活日誌について、対応する計画目標の番号を記したり、計画目標に関連する記入の色を変えるなど、目標を意識した記録の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を細かく記入し、職員全員が情報共有した上で、意見を出し合いながら行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録を細かく記入し、職員全員が情報共有した上で、意見を出し合いながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の授業受け入れや園児の遊戯披露等、定期的に交流する機会を設けている。イベント時にはボランティアとの交流も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医がいる場合は継続して受けられる体制を整えている。当ホームの主治医は2週に1回、往診に来ており、その他にも歯科医や柔道整復師の往診もある。	利用者は全員、協力医による2週に1回の往診を受けている。内科以外に通院する場合、緊急時は事業所で通院支援を行っている。受診内容を利用者ごとの「支援経過記録」に記載し、共有している。	

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に相談や情報提供を行い、アドバイスを受けている。看護師も約9年間、当ホームに訪問している為、入居者様との関係性も築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は病院の看護師やSW、ご家族様と情報の共有を図っている。又、退院後の対応についても詳しく相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を契約時に説明している。又、入居者様が重度化した場合は主治医、看護師、ユニット管理者、ご家族様と担当者会議を開催し、何をどこまで行うか等の事柄を明確に決めている。	利用開始時に事業所の対応方針を記した「同意書(重度化した場合の対応指針)」を説明して署名捺印を得ている。過去に看取りを経験し、今後でもできる範囲での看取り支援を行う方針としている。看取りに関するマニュアルも整備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故対応マニュアルを作成している。救命救急は出来る限り、全職員が講座を受講できる様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年に3回、水害・災害・火災の避難訓練を行っており、その内1回は消防署職員立会いの下で行っている。	年3回、火災、地震、水害のそれぞれの避難訓練を実施しており、地域住民の参加もある。火災訓練は夜間想定で消防署の指導を得て行っている。職員の救急救命訓練の受講も計画的に行われ、災害時の備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や性別、職歴等、1人1人に応じた対応を心掛けている。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとしている。職員は新人研修で言葉かけや接遇を学んでおり、今後も勉強会を計画している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は入居者様の想いを出来る限り聞ける様、問いかける様な声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	横になるタイミング等その方のペースを大切にしながら支援をしている。困難な方に対しては以前の生活情報を参考にしながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、ご本人様にその日の洋服を選んで頂いている。困難な場合は季節や気温に合った洋服を職員が選んでいる。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前までは入居者様の好み等で献立を立てていたが、現在は食事メニューが決められ、食材も配達になった為、行えていない。準備や片付けは出来る範囲で一緒に行っている。	外注業者によるメニューで栄養バランスが保たれている。外食や特別食の機会が以前より少なくなったが、おやつは職員が考えて手作りする日もあり利用者の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立の為、栄養バランスは取れている。飲水量は1日1500ccを目標に水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔内に問題があれば、往診の歯科医に相談や治療をして頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1時間半～2時間を目安に声かけや誘導を行っている。又、個々の排泄パターンを出来る限り把握し、トイレでの排泄が行える様、努めている。	生活記録に全員の排泄記録をつけている。誘導の必要な利用者には失敗の無いよう早めに声かけしている。夜間のみ居室でポータブルトイレを使う利用者もあり、個々に沿った支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の対応表を主治医が作成し、それを基に対応をしている。何かあった際にはNsやDrに相談を行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴を行っている。曜日で入りたい方や○日目で入りたい方等は個々に対応している。	毎日入浴可能で、午前1名と午後に2名が順に湯を交換し、職員と話をしながら湯船につかっている。温泉の香りの入浴剤や、好みのボディソープ・シャンプーで気持ちのよい入浴時間になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝の時間を設けたり、入居者様の状況を見ながら休息を促したりと支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報や症状の変化等を常に確認し合える様に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご自身の洗濯物を畳んだり、好きなTVや雑誌の提供、クリスマス会等の季節ごとのレクリエーションも行っている。			

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事に関しては現在施設と協議中である。夏場は入居者様と薬局やコンビニに出掛けている。	暖かな日は隣のドラッグストアやコンビニエンスストアへ散歩しながら買い物に行っている。家族の支援で自宅の家庭菜園に行く方もいる。以前は毎月の外出行事が出来ていたが、この半年ほどは出来ておらず外出行事の計画も立てていない。	散歩のできない冬期は外出機会が減るので、車で買い物やドライブに出かけるなど、日常的な外出機会の増加を期待したい。また、以前のように利用者が楽しめるような、年間を通じた外出行事の実現を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でやっている。入居者様から希望があった際は一緒に買えるものは出掛け、困難な場合は職員が代行して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る体制はあるが、電話や手紙は今の所ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や飾りつけをし、居心地の良い空間作りを心掛けている。	居間の大きな窓から幹線道路の車の往来や、小学校に通う子供達のにぎやかな光景が見える。季節の飾りやテレビ、ソファを置いた居間は暖かく憩いの場所になっている。トイレや廊下も気になる匂いや光など感じず清潔に掃除がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭い為、確保するのが困難である。出来る限り気持ち良く、過ごせる様に相性を考えた座席にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご家族様には馴染のある物を持参される様に伝えている。本人が少しでも安心して生活が送れる様に支援している。	居室にはあらかじめ洗面台、クローゼット、ベッド、カーテンが用意され、その他に各自好きな物品を持ち込んでいる。鏡台、家族の写真、ぬいぐるみ、仏壇や遺影を置いて心地よく安心して暮らせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に案内板を『その人』が解る言葉で掲げ、出来る事、解る事で出来る限り自立した生活が送れる様にしている。		

目標達成計画

作成日：平成 29年 4月 10日

市町村受理日：平成 29年 4月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	散歩のできない冬期は外出機会が減るので、車で買い物やドライブに出かけるなど、日常的な外出機会の増加を期待したい。また、以前のように利用者が楽しめるような、年間を通じた外出行事の実現を期待したい。	外出行事の機会を得る事ができる。	以前の様に外出をし、景色や食事を楽しめるよう事業所と話し合いを行っていく。最低でも29年度中に1度は外出行事を行いたい。 個々の入居者様とは日用品の買物等の外出を継続していく。	平成29年度中
2	4	会議に家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。仮に参加が得られない場合も、事前に意見を聞いて会議で取り上げることで、間接的に意見を活かすことを期待したい。	ご家族様に平成29年度の運営推進会議に参加してもらえる。	ご家族様へ【運営推進会議への参加に関して】の便りを郵送し、面会に来たご家族様には具体的な内容をお伝えしていきます。万が一、協力が得られない場合は意見をお聞きし、会議で取り上げて、ご家族様にフィードバックをしていく。	平成29年度中
3	26	日々の生活日誌について、対応する計画目標の番号を記したり、計画目標に関連する記入の色を変えるなど、目標を意識した記録の作成を期待したい。	ケアプランとの関連性がわかる記録作り。	ケアプランに関連する文章の後ろに○ケ(○の中にカタカナのケ)を記入していきます。あえて番号等は書かず、モニタリングの評価時に生活記録のみで判断をしない様、ケアプランと生活記録を見比べる癖もつけていきます。	平成29年度中
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。